

ハーブティ

～女と男をかんがえる～ ハーブティ：「ハーブ (herb)」は薬草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使います。これが心と体にバランスのとれたよい刺激を与えることから、女と男も互いにバランスのとれたよい関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークも広がれば…という願いがこめられています。

牛田 文子さん (子どもと本を読むあゆみ会 会長)



子どもと本を読むあゆみ会とは

1970年に発足した読み聞かせボランティア団体です。どの子にもよい本を、どの子も本好きに、どの子にも読書の喜びをという三つの願いを込めて歩んできたあゆみ会は、今年48年目を迎えます。

読み聞かせの対象は、0歳児から高齢のかたまでいらっしゃいます。私自身は、41年間、このボランティアに携わっています。

牛田さんにとって継続する原動力とは

私は、読書の持つ力を信じていますし、そこに出会いと感動があると思っています。読み聞かせをしていると、お子さんは、もう目の輝きが違います。



今後の抱負について

新しく出来る生涯学習センターの図書館を楽しみにしていますし、地域に密接した形になることに期待しています。

あゆみ会としても、読み聞かせや絵本に関わるイベントなど、何かできればと思っています。

小林 理奈さん (救急隊員)

この仕事を選んだきっかけ

父が消防士で、子どもの頃、父の職場へ行き、はしご車に乗せてもらったことがありました。「火を消したい!」、「消防車に乗りたい!」って思いましたね。

消防士から救急隊へ

消防は、力仕事が多いですね。何度か実際に消火活動をしたのですが、身の危険を感じたこともあります。でも、怖いから辞めたいと思ったことは、一度もありません。

救急の場合は、厳しい現場の状況に直面する場合がありますが、しっかりと状況を直視する必要があります。



心がけていること

男性職員に気を使わせないこと、女性ならではのさわやかさを失わないことです。

高校時代から体力を向上させてきましたが、今もトレーニングを欠かすことはありません。結婚をしても、この仕事を続けたいですね。



白岡ではたらく女性達

私達が住む白岡市には、さまざまな仕事に携わるかたがたがいらっしゃいます。今回は、その中から3人の女性にお話をうかがいました。それぞれの分野でご活躍なさっている女性達を紹介します。

坂本 梢さん (医師)

2児の母として

外へ勤めに出るよりは、子どもといっしょにいる時間が長いほうだと思います。

でも、時々、ひとりになれる通勤時間がある人達がうらやましいなって感じることもありますね。

私は、午後6時には医師から母に戻ります。

我が家の土曜日は、パパご飯です。



医師として

子どもを産んでから、病院に子どもを連れてくるお母さんの気持ちが分かるようになりました。独身時代に比べると、子どもの患者さんのことも理解できているつもりです。

土曜日は、お父さんがお子さんを連れてくることも多いですね。



自分の時間は

午後6時からが、一番大変な時間になりますし、朝もバタバタしますね。昼休みと、子どもが寝た後が自分の時間です。

お休みのときには、趣味の家族旅行へ行くこともありますよ。それが楽しみですね。

編集後記

今回、私達が出会った女性達は、さわやかさ、優しさの中に凛とした強さと信念を感じさせてくれました。

こういった人達が、私達の周りにいてくれる。

心強い気持ちで一杯です。

文末になりましたが、ご多用の中、こころよく取材をお引き受けくださった牛田さん、坂本さん、小林さんに、心から御礼を申し上げます。

しらおか男女共生広報編集委員 宮崎千英子・依田 透・西村恵子
問合せ 地域振興課 人権担当 内線385